（様式）

資料６

具体的対応方針の再検証の検討結果について

医療機関名　湖東厚生病院

1　2025年を見据えたダウンサイジングや病床の機能分化・連携等の対応方針

（対応あり）　（対応なし）　（検討中）

2　現在の地域における急性期医療や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自医療機関の役割

当地域は2025年に向け高齢者人口、特に後期高齢者は微増が予想され、高齢者医療の需要は現状のまま推移するものと予想されます。一方で若年人口は減少が続き、高齢者の単身世帯や老夫婦のみの世帯の増加が進むことから、近隣に通院可能な医療機関の存在は不可欠と考えられます。そのような中で当地域における唯一の病院である当院においては、高齢者に好発する肺炎・心疾患・脳血管疾患等の需要は今後も持続的に増加することが予想され、急性期病棟の維持は当地域の地域包括ケアシステムの基軸として極めて重要なものと考えられます。一方で、病院全体の病床稼働率は増加傾向であるものの、急性期病棟の病床稼働率は減少傾向が続いているのも事実であり、機能転換促進の観点から一部の急性期病床を回復期病床への転換するのが妥当であると考えます。

3　分析対象とした領域ごとの医療機能の方向性（他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小等）

高齢者に好発する肺炎を始めとする感染症、呼吸器疾患および心血管疾患に対する入院医療（軽症～中等症）を提供する急性期病棟は、今後も当地域の医療には欠かせないものと考えられます。一方で、急性期医療の需要は将来的にも減少が予想されることから、急性期病棟の一部縮小は必要であると考えます。更に、秋田厚生医療センターとの医療連携を一層強化し、高度急性期後の回復期患者の受入れを拡充するために、回復期病棟への移行を図っていく方向で考えています。そうした状況を考慮した上で、急性期病棟の定数を56床から47床へ、回復期病棟の定数を44床から53床へ変更し、今後も患者需要動向の変化に伴い、更に急性期病棟の一部を回復期病棟へ転換することも視野に入れながら対応していく予定で考えています。

4　2・3を踏まえた病床4機能の病床数の変動

〇2020.1.1現在

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
	56	44		100

〇2025の病床数

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
	47	53		100

〇病床数の変動内容

急性期病棟の4床室×2、1床室×1合計9床を回復期病床に変更（最大値）

5　医療介護基金や新たなダウンサイジング支援の活用

（活用する）　（活用しない）　（検討中）

〇活用内容の概要

回復期病床への転換にあたり、必要となる施設・設備整備への活用など

※貴院の患者数や患者実態、急性期医療の提供内容が分かる資料があれば添付してください。